The Young Women's Christian Association
YWCA

4
APRIL 2025
No.785
Since 1905
120th Anniversary

〈第34総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
―マタイによる福音書5章9節―

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤　平和・環境　人権　セーフスペース

社会を分断しないための必須科目

2～4面 寄稿・山脇岳志
スマートニュース メディア研究所所長
6～7面 地域YWCAのおはなし会リポート
横浜編・神戸編

“メディアリテラシーのススメ”

イラスト／大島史子

社会を分断しないために メディアリテラシーのすすめ

スマートニュース メディア研究所所長 山脇岳志

選挙の結果を左右するソーシャルメディア

SNSや動画投稿サイト（以下まとめてソーシャルメディア）は、私たちの社会に大きな影響を与えています。アメリカの大統領に返り咲きを果たしたドナルド・トランプ氏は自ら立ち上げたSNSで、閣僚人事など重要な事柄について次々と投稿します。また、政府効率化省のトップ、大手ソーシャルメディアのXのオーナーでもあるイーロン・マスク氏も自らのXを使い、トランプ支持の投稿などを拡散しています。

国内の選挙でも、ソーシャルメディアをうまく活用した候補や政党が躍進、当選するケースが増えてきました。これまでの選挙活動では届かなかった層にメッセージを届けられるというポジティブな側面がある一方、感情的な対立が激しくなる例も見受けられます。そうなると、相手候補やその支持者を叩きのめす言動が歓迎され、虚偽ニュースが広がりやすくなります。

そこで注目されているのが、メディアリテラシーです。

メディアリテラシーの3つのポイント

これにはさまざまな定義がありますが、私たちの研究所では3つのポイントが重要だと考えています。

1点目は、メディアの仕組みや特徴について理解することです。特にソーシャルメディアのアルゴリズムへの理解が重要です。ソーシャルメディアはコンピューターのアルゴリズムを使って、私たちユーザーの好みや行動履歴に基づいて、個人に最適化した情報を届けてくれます。膨大な情報量から自分が「好きそうな」情報を簡単に見つけるので便利ですが、「自分好みの情報だけ」に囲まれてしまいがちで、むしろ世界が狭くなるリスクがあります。

2024年の能登半島地震でXに「偽の救助要請」の投稿が相次いだり、兵庫県知事選の際にYouTubeなどで根拠が乏しい情報の動画が多く投稿、拡散されたことが問題になりました。これには、投稿の再生回数などに応じて投稿者に収益が入る仕組みと関係しています。「とにかく見られればよい」という一部の人の経済的動機が、警察や消防の救助活動を妨げたり、選挙結果に影響を与えたりしかねないのです。

2点目は、「すべての情報は再構成されていること」への理解です。私たちは情報を「ありのまま」「そっくり」人に伝えることはできません。テレビも新聞も雑誌の情報も、どこかを「切り出して」人に伝えるために分かりやすくまとめています。ただ、「切り取り」はメディアに限らず、私たち誰もが、日常の会話やSNSの発信でもやっていることです。

3点目が、クリティカルシンキングのスキルを身につけること。これが最も重要だと思います。「批判的思考」という定訳がありますが、この訳は誤訳に近いのではと思っています。日本語で「批判」というと、相手を否定したり、場合によっては非難するようなニュアンスが含まれがちです。

クリティカルシンキングは、物事を多角的・複眼的に見たり、自分の考え方を内省・吟味したり、証拠に基づいて論理的に考えることです。相手の立場に立って考えてみる。相手の文化的な背景を理解する。そうやってよく考えた結果、相手の意見を肯定したり、新たな視点や意見を提示したりするこ

とも含まれます。そのことから、私はクリティカルシンキングを「吟味思考」と訳しています。

こうした3つのポイントから、メディアリテラシーは、自分とは異なる意見や文化を持つ人との対話スキルでもあるといえます。

真偽を見分ける情報リテラシー

一方、情報の真偽を見分ける力は「情報リテラシー」とされます。メディアリテラシーと一体的に「メディア情報リテラシー」とされることもあります。情報リテラシーの基礎として、マスメディアとソーシャルメディアでは発信プロセスが異なることへの理解が挙げられます。

マスメディアにもさまざまありますが、ここでは新聞社を例に取りましょう。新聞も人間の集団が作っている以上は誤報もありますし、新聞社によって報道ぶりに保守的、リベラル的といった価値観やバイアスが顕著に現れるケースもあります。なので、新聞が報じることは「すべて真実だ」と受け止めるのがよいわけではありませんが、報道にあたっては事実の確認に力を入れ、誤報を防ぐためのチェックシステムを社内にもっています。また、誤報を出した場合は、訂正やお詫びを出します。

また、記事を書く上で、まず記者本人が事実を確認するだけでなく、上司のキャップやデスクのチェック、校閲チームのチェックといった何重もの「関門」があります。人件費などのコストをかけて事実をチェックし、報道しているのです。

一方、ソーシャルメディア上の情報は、必ずしも何重にもチェックを受けているわけではなく、事実関係が間違っていても訂正されないケースが大多数です。もちろん、その道の専門家がすばらしい内容を発信しているケースもありますが、誰もチェックしていない不確かな情報、偽情報や陰謀論も流れ、まさに「玉石混交」です。インフルエンサーといわれる有名人の言説であっても事実確認をしていない情報が多いことには注意が必要です。

チェックリスト「いつ『ふくえび』発売?」

具体的に、情報の真偽を見極める方法はあるのでしょうか? アメリカの図書館や大学では情報の信頼性評価のための「CRAAPテスト」が使われています。その中で、私が特に大事だと思う「確認ポイント」を5つ挙げましょう。

①いつ発信されたものか

情報の鮮度。発信・投稿された日時、更新の有無などを確認

②複数の情報源

一つの情報源だけで判断していないか。複数で確認できたか

③エビデンス（証拠）

例えば科学的な話題なら、権威あるジャーナルに引用されているか

④発行元（媒体）や発信者

信頼性はあるか。高名な学者でも専門外の分野では見当違いもあり得る

⑤バイアスや目的の探求

セールス、宣伝、勧誘……発信者の狙いはなにか

5つの頭文字をとって、「いつ・ふく・えび・はつ・ばい」→「いつ『ふくえび』発売？」とすると覚えやすいです。

真偽不明というあいまいさに耐える

しかし、このリストを使っても真偽が分からないことは多く、生成AIの発展でますます虚実は見分けにくくなっています。そもそも、情報は真実と虚偽に二分されるものではなく、いくら調べても真偽が分からない膨大なグレー情報があります。上智大学の佐藤卓己教授は、グレーな情報については「あいまいさに耐える」つまり「ほうっておくほうがいい」と提案しています。私もその態度は、重要だと思います。真偽不明な情報については、立ち止まって考えてみたり、人に広めないように心がけたりすることが大切です。

profile

やまわき・たけし

1964年、兵庫県出まれ。京都大学法学部卒。1986年、朝日新聞社に入社。経済部記者、ワシントン特派員、論説委員、GLOBE編集長、編集委員などを歴任。2013年～17年までアメリカ総局長。オックスフォード大学客員研究員、ベルリン自由大学上席研究員も務めた。2020年、スマートニュース メディア研究所の研究主幹に就任、22年から所長。メディア情報リテラシー教育を研究・実践するほか、世論調査の企画・運営にも携わっている。

あわせて読みたい！

『SNS時代のメディアリテラシー ウソとホントは見分けられる？』

山脇岳志 著　ちくまQブックス（2024年）

メディアとの接し方、付き合い方によって、情報は自分の世界を広げるツールになる。本書は情報の海を渡るための10代向けのテキストだが、大人の学びにも最適。2016年の大統領選挙でトランプ氏が当選し、分断されていくアメリカ社会を見た著者は、メディアリテラシー教育の重要性を痛感したという。そんな思いも込められた一冊。選挙の前に読んでおきたい。

『情報のさばき方 新聞記者の実践ヒント』

外岡秀俊 著
朝日新聞出版（2012年）

メディアに携わる人々の間で読み継がれている名著の電子版。20年前、当時の朝日新聞の編集局長が、ジャーナリズムの危機やネット時代を生きる人々の課題を予見して上梓した。長年の記者人生で鍛えられた「情報力」を、つかむ（収集）・よむ（分析・加工）・伝える（発信）に切り分けて、豊富な事例とともに説いている。記者時代、常に取材相手から信頼を得られたという著者の姿勢も垣間見え、技術以外の大切なことにも気付かされる。2021年に急逝した著者が現代の私たちに遺したメッセージでもある。

『それって本当？ メディアリテラシーはじめよう フェイクニュースとクリティカルシンキング』

ジョイス・グラント 著
キャスリーン・マルコット 絵
片柳伊佐 訳／岩崎書店（2023年）

「フェイクニュース」が生まれるカラクリやその危険性、本物のニュースの見分け方に意識的になれる絵本。情報は、発信者の育った環境や過去の経験も影響するから、発信者がどんな視点で発信しているか、欠落している視点はないかと考えることも大切だ。フェイクとホンモノのニュースの間にある広告宣伝や釣り見出し、フェイク動画など、日常の「落とし穴」にも気付かされる。さまざまなニュース源を見比べ、鵜呑みにせずじっくり考える「クリティカルシンキング」が、ますます重要だ。気軽に読める入門書として大人にも勧めたい。

book

Welcome to YWCA Library

今月のテーマ「メディアリテラシー」

「対話スキル」でもあるメディアリテラシー。平和な社会をつくるための必須科目といえそうです。学校の授業など子どもが学ぶ機会は増えつつありますが、大人は置き去りにされがちです。この春から、メディアリテラシーの学びをはじめてみませんか。

©NHK

動画

『ネズリテ ネズミ親子と学ぶ ネットリテラシー』

https://www.nhk.jp/p/ts/9V257L9KZ9/movie/

2023年からNHKで放送されている、ネットリテラシーをテーマにした5分のアニメ番組。スマホで見つけた情報に振り回される慌て者の父ちゃんネズミと、冷静にツッコむ娘ネズミの落語のような会話が、シュールな画風で展開。子どもから大人まで、ゆるく楽しみながら学ぶことができる。公式サイトでは、「何を信じる？　選挙の情報」や「フィルターバブルこわい」など、これまでの番組の一部を紹介した動画7本が公開中。社会課題をおもしろく、分かりやすく伝えるエンタメの可能性にも注目したい。

『メディアリテラシー 吟味思考（クリティカルシンキング）を育む』

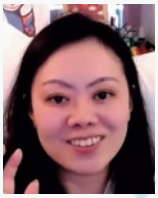
坂本旬・山脇岳志 編著
時事通信社（2021年）

メディアリテラシーを実践するうえで最も重要なクリティカルシンキング。本書の共編著者で、今号巻頭の筆者、山脇岳志さんは「吟味思考」と訳し、このスキルをもつ人が増えることが多様で寛容な社会につながるという。本書は、学術界からジャーナリズム、教育現場まで多彩な専門家が寄稿し、クリティカルシンキングの論理と実践を説く。実践編では小学生から高校生を対象に、国語、社会、総合的学習などの科目で活用できる10例を掲載。学校はもちろんのこと、大人のワークショップの教材としても最適な一冊。

地域YWCAの「おはなし会」に参加して 1

横浜編

北欧の若者の日常に民主主義の土台をみた



横浜YWCAは、LA（ローカルアクション）のプログラムとして、静岡の女性ネットワーク「Tea+α」、杉並区で活動する「ジェンダーカフェ杉並」と協働し、日々の暮らしの中で政治参加を考える活動を展開している。この日は、ノルウェーを拠点に北欧情報を発信するジャーナリスト、あぶみあさきさんを招いてのおはなし会を開催。北欧の選挙や政治について聞き、若い世代の政治参加を促すヒントを探った。

政治や選挙は日常の一部 自分の言葉で語り合う

北欧と聞くと、高福祉、ジェンダー平等先進国、高い教育水準などのイメージが思い浮かぶ。そして、成熟した民主主義国家でもある。まず、あぶみさんが紹介してくれたのは、各国のカラフルで楽しそうな選挙活動の写真だ。街のあちこちにポスターが貼られ、大きな通りや広場には各党の「選挙小屋」が立ち並ぶ。学生たちはそれぞれの小屋をふらりと訪ね、担当者とお菓子をつまみ、コーヒーを飲みながらおしゃべりをする。そうして候補者の多様性や各政党のカラー、難民、税金、教育などの政策を比べることができる。元首相や閣僚、国会議員が選挙小屋で市民と気さくにチェスをしたり、校門の前でチラシを配っていたりするのも特別なことではない。政治や選挙が北欧の街並みに溶け込み、日常の一部となっているのだ。

キッチンカーのような選挙小屋。選挙前、ふらりと立ち寄り、コーヒーを片手に政治家と自由に話をする

そのような環境で、若者は幼い頃から政治を身近に感じて育つという。親と一緒に投票所に行き、夕食のテーブルで親が政治談義をするのを聞き、学校の宿題で各党の政策の違いについて調べたりする。高校では生徒自らが企画運営して各政党のユースを招いた討論会を開催し、選挙小屋で政策を聞き、模擬投票を行ってる。若者（もしくは子どもたちが）が身近な社会課題を自由に討論し合い、解決に取り組む民主主義の土台がまさにそこにある。

北欧で若い世代の政治参加に大きな役割を果たしているのが各政党の青年部の存在だ。10代～20代の若者が年会費を支払って党員となり、そこでさまざまな勉強会に参加して、党の政策、ディベートのテクニックなどを身に付け、政党の代表として学校での模擬選挙や選挙小屋で党の政策を語るという。同年代の若者が自分の言葉で分かりやすく語るからこそ、心に響くのだろう。

自分とは違う立場に立つ「批判的」な思考を重視

これに対して日本の多くの学校では、「特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない」（教育基本法）とされ、教員は政治的中立性を求められる。生徒が政党に参加して学校で選挙活動をするなど、もってのほかだ。わが子がデモや政治活動に参加すれば進学や就職に悪影響を及ぼすと懸念する保護者もいるだろう。

国会議員とチェスで勝負。子ども向けのサービスもあり、選挙は楽しいイベントだ

そんな日本独特の「中立」、「偏っている」、「意識高い」などの言葉を、あぶみさんは「人の意見や行為に蓋をする呪いの言葉」だという。北欧ではむしろ偏らなければ、自分の価値観や投票先は選べなくなると考えるし、自分と異なる意見や文献を探し、自分とは違う人の立場に立とうと努める「批判的」な思考が何より重視されるという言葉が印象的だった。

政治が生まれたときから身近にある北欧とは違う日本の若者の政治参加を促すためには、安心して政治について語れるセーフスペースを提供していくことが小さな一歩なのかもしれない。

編集部会　吉田亜希

横浜YWCA・Tea+α・ジェンダーカフェ杉並主催
「北欧の幸せな社会のつくり方～10代からの政治と選挙～」
2025年2月11日（火・休）
横浜YWCA会館・オンライン

地域YWCAの「おはなし会」に参加して 2

神戸編

あの日・いま・これから「福島で生きる」ということ

阪神淡路大震災から30年を迎えた神戸、東日本大震災と原発事故から14年を迎えた福島。共に未曽有の大災害を経験した二つの地域を対等な関係で結び、交流・情報発信をする取り組みが神戸YWCA「神福（こうふく）のはしごプロジェクト」で続けられている。今年は福島の生活者の声を聴く「おはなし会」を実施。第一回のゲストは、YWCA元会員で、福島市でこども食堂を運営する半澤敦子さん。

これまでの積み重ねが「子ども食堂」に結実

半澤さんのお話は〈過去〉震災当日にさかのぼる。2011年3月11日14時46分、半澤さんは当時の職場、福島市の女性保護施設にいた。幸い水道以外のインフラは無事だったので、原発事故後は産まれたばかりの赤ちゃんとお母さんの避難所としてセンターを開放したそうだ。神戸YWCAは日本YWCAと協力し、震災後の早い段階から現地入りし、支援活動に参加している。そのことを思い出すと、今でも半澤さんの目には涙が浮かびそうになる。携帯に残された緊急地震速報のメール、震災1年後でも放射線管理区域の約2倍の数値を示す放射能測定ポストなど、当時の記憶を生々しく伝える写真に言葉を失った。

半澤さんが立ち上げた子ども食堂「とりかわバァちゃんち」。子どもたちを育み、大人も育まれている

〈現在〉半澤さんは、携わっていたさまざまな地域の活動を整理し、2年前に子ども食堂「とりかわバァちゃんち」を始めた。平塚YWCA主催の子ども食堂の実践についてのオンライン講演会で、「子どもに大人の真の姿を見せればよい」という講師の湯浅誠さんの言葉に背中を押されたという。地域の人脈をフル活用し、試行錯誤を重ねながら始めた子ども食堂は月1回の開催で、今では毎回80人以上の子どもたちが参加している。子どもたちが放課後、スタッフ手作りのゲームで遊んだり、ボランティアに勉強を教えてもらったりして過ごし、塩むすびと野菜たっぷりの味噌汁で心とお腹を満たす……サードプレイスの居場所として定着しつつあるようだ。

人とのつながり ネットワークを大切に

最後は福島の〈未来〉について。驚いたことに、いつの間にか福島市の先達（せんだつ）山（やま）では大規模太陽光発電所（メガソーラー）が建設されることになり、森林が伐採されているという。県内では既に海外資本を含むソーラーパネルの設置事業が急速に進んでいるが、自然災害を懸念する市は「ノーモア メガソーラー宣言」をし、市民による反対運動も行われている。原発事故を経験した福島で、当初はクリーンなエネルギー源として歓迎された太陽光発電だが、メガソーラーの建設が相次ぎ、環境への悪影響が懸念されるほか、土砂流出などの被害が起きている。半澤さんは子どもたちに原発のゴミとソーラーパネルのゴミを背負わせるわけにはいかないと、抗議活動に参加し、声を上げ続けていく決意だ。「神福のはしご」も含め、人と人とのつながり・ネットワークを大切にして生きることが、ひいては震災の備えとなるのではないかと話を締めくくった。

福島市のシンボル吾妻連峰の一角、先達山。メガソーラー建設で山肌がむき出しに

子ども食堂の活動を機にようやく「復興が始まった」気がしたという半澤さんの言葉が心に響いた。地域の人と共に福島の未来を担う子どもたちを育む前向きな活動をスタートさせたという意味もあるのだろう。

あの日から14年、子どもたちの笑顔に励まされて、復興への最初の一歩がはじまる。

編集部会　吉田亜希

神戸YWCA主催
神福はしごプロジェクトおはなし会
「震災14年を迎える福島で生きてます」
2025年1月18日（土）オンライン

エンパワーするNGO
YWCA

コロンビアから
すべての
女性たちへ

Hike it, you'll like it !

まずは一歩を踏み出そう！

アメリカ発の総合アウトドアブランド「コロンビア」では、国際女性デーを記念したオリジナルデザインのTシャツと手ぬぐいを販売。昨年に続いてコロンビアスポーツウェアジャパンから、その売り上げの一部が日本YWCAに寄付されます。コロンビアとYWCA、少し意外な組み合わせに思われるでしょうか――。

日本でもおなじみのコロンビアが今日のような世界的ブランドに成長した背景には、女性経営者のリーダーシップがありました。その女性、ガート・ボイルさんは創業者の娘で、男性中心のアウトドア業界で専業主婦から経営者に転身。さまざまな環境にある女性や子ども、誰もがアウトドアを楽しめるように画期的な製品づくりや適性価格を重視した経営で、コロンビアとアウトドアの裾野を広げました。そんなボイルさんの精神を受け継ぐ同社では、アウトドア業界でもっと女性がリーダーシップを発揮し、あらゆる女性たちが安心して自由にアウトドアを楽しめる世の中を目指して多彩な取り組みをしています。女性のリーダーシップで平和な社会を目指すYWCAとどこか通じるものがありそうです。

今年のTシャツには、ボイルさんの言葉「Hike it, you'll like it.」がプリント。この一言に「まずは一歩を踏み出そう」という想いが込められています。女性リーダーとして業界の地平を切り拓いたボイルさんから、すべての女性を励ますメッセージといえるでしょう。

2025年3月8日、国際女性デー。この日、日本YWCAから国連女性の地位委員会（CSW）への派遣メンバーがニューヨークへと出発。このTシャツを着てプログラムに臨みました。（次号で報告予定）。この春、私たちもボイルさんの言葉のように、新たな一歩を踏み出してみませんか。

詳細・購入は
こちらから

もっと知りたい！
コロンビア

YWCAスタッフもTシャツを着て
国際女性デーを盛り上げました

問い合わせ　コロンビアスポーツウェアジャパン　TEL. 0120-193-803

ご協力ありがとうございます

賛助費
阿部幸子　遠藤真理　大野綾子
梶原恵理子　加納美津子　上遠恵子
河越良子　木村順子　幸田良子
今野友貴　鹿野幸枝　瀧さをり
長尾眞理子　深田光代　益田明美
桃井明男　森田矩子
日本基督教団聖ヶ丘教会
日本バプテスト連盟日野神明キリスト教会
日ノ本学園高等学校
福岡女学院中学校・高等学校
松山ＹＷＣＡ

ピースメーカーズ募金
（平和を創り出す女性のリーダーシップ養成）
池上幸子　内山伸子　遠藤真理
大野綾子　金井淑子　河越良子
木村浩子　木村順子　清塚典子
小林聡　佐々木洋子　篠田茜
島﨑真奈美　瀧さをり　長尾眞理子
長縄光子　仁平のぞみ　野田美由紀
牧甫　益田明美　松下真佐子
万年禮　村上千代子　毛利亮子
渡辺修一
日本基督教団扇町教会
日本キリスト教会沖縄伝道所
日本バプテスト同盟駒込平和教会
日本キリスト教団西千葉教会
日本基督教団ひばりが丘教会
日本基督教団都島教会
日本キリスト教会横浜海岸教会
学校法人活水学院
尚絅学院高等学校
社会福祉法人高倉ひかり保育園
学校法人玉川聖学院
フェリス女学院中学校・高等学校
山梨英和中学校・高等学校
釧路ＹＷＣＡ
福島ＹＷＣＡ
公益財団法人名古屋ＹＷＣＡ
松山ＹＷＣＡ

災害時支援募金
（国内外の災害被災者支援）
細川敦子

（オリーブの木キャンペーン募金）
粟野智子　大野綾子　河越良子
木村浩子　木村順子　小林聡
斎藤康代　阪本和子　佐藤悦子
篠田茜　鈴木律子　瀧さをり
富岡美知子　長尾眞理子　平川幸子
福田公子　毛利亮子　保田諭子
吉岡真紀子　渡辺修一
日本基督教団扇町教会
日本キリスト教団千葉支区女性ヤスクニ集会
弘前ＹＷＣＡ
一般財団法人仙台ＹＷＣＡ
一般財団法人平塚ＹＷＣＡ
大阪ＹＷＣＡ大宮保育園
松山ＹＷＣＡ

（ウクライナ支援）
市川美樹　福田公子
日本基督教団静岡一番町教会 子どもの教会
酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校
学校法人江別若葉学園 元江別わかば幼稚園
一般財団法人仙台ＹＷＣＡ
公益財団法人東京ＹＷＣＡ　募金箱
一般財団法人平塚ＹＷＣＡ
公益財団法人福岡ＹＷＣＡ

（パレスチナＹＷＣＡ支援）
嘉屋陽子　細川敦子　益田明美
桃井明男
日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会
日本キリスト教会豊島北教会
０４２２市民クリスマス実行委員会
新潟ＹＷＣＡ
公益財団法人東京ＹＷＣＡ
一般財団法人平塚ＹＷＣＡ
一般財団法人呉ＹＷＣＡ

（ビルマ／ミャンマー支援募金）
家本香子　生駒寛子　木下悟
澤田章　中村恭子　星万里子

東日本大震災被災者支援募金
木村浩子　細川敦子
大森ルーテル幼稚園 父兄・園児一同
恵泉女学園中学・高等学校　宗教部
捜真女学校 同窓会・ＰＴＡ
新潟ＹＷＣＡ

日本ＹＷＣＡユース・エンパワメント寄付金
学校法人女子学院
西南学院中学校・高等学校
日本キリスト教協議会

（２０２４年12月16日～２０２５年２月15日敬称略）

発行所 公益財団法人日本YWCA　〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11　東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121　Fax.03・3292・6122　office-japan@ywca.or.jp　www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子／偶数月1日発行
旬な情報発信しています　メルマガ登録　y-net@ywca.or.jp　にお名前を送ってください ／ フェイスブック　www.facebook.com/YWCAJapan
メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp
無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。